

## COM・SCM・スケジューリング研究部会報告

01702320 由良 憲二 電気通信大学 YURA Kenji

01012600 \*今泉 淳 東洋大学 IMAIZUMI Jun

## 1 はじめに

本研究部会は、日本経営工学会との合同研究部会(主査:青山学院大学 黒田充、幹事:法政大学 西岡靖之)であり、1998年4月に発足、現在(2000年7月)までに、合計24回の研究部会を開催した。本稿では、本研究部会の現在までの活動内容の概要を報告する。

## 2 活動概要

本部会では全体的最適化を指向するCOM(Computer Optimized Manufacturing)によって、一企業内だけでなく全体を考慮したグローバルな視点からサプライチェーンの構築や改善を目指す、様々な方法論やコンセプト、ツールや事例の紹介、これらに関連するスケジューリングの話題を中心に、毎回活発な情報交換を行ってきた。毎回の参加者は主に大学の研究者と企業の実務家からなり、講演者と参加者とのディスカッションに多くの時間を取り、疑問点を提示し合うことで、お互いの研究の刺激としている。

なお、1989年に発足したCIM・FMS管理技術研究部会以来、一連の研究部会を通算して100回目の研究会である1999年11月の研究会を、「ラグランジュ緩和法とスケジューリング」というテーマで、特別講演2件とパネルディスカッションからなる「記念研究会」として開催した。

## 3 活動状況

以下に毎回の開催日、テーマ、講演者、参加者数を記す。

## 第1回(1998年4月30日)

「SCMのインフラとしてのERP」、松林光男((株)日本ビジネスクリエイト、同期ERP研究所)、54

名

## 第2回(1998年5月29日)

「メタ解法をベースとしたロジスティクス諸問題へのアプローチ—配送計画問題を中心として—」、下村雅彦(三菱総合研究所、情報技術開発部)、39名

## 第3回(1998年6月26日)

「ロジスティクスにおける最適化」、久保幹雄(東京商船大学流通情報工学科)、33名

## 第4回(1998年7月16日)

「設計、開発のためのプロジェクトスケジューリング」、成松克己(東芝、研究開発センター)、21名

## 第5回(1998年9月4日)

「サプライ・チェーン・マネジメントのアルゴリズム」、Sanjiv Sidhu(i2テクノロジー・インク、CEO)、140名

## 第6回(1998年9月24日)

「制約最適化技術のスケジューリング問題への応用」、吉川昌澄(NEC、C&Cメディア研究所)、20名

## 第7回(1998年10月22日)

「Virtual Supply Chain Test-bed」、梅田茂樹(武蔵大学経済学部経営学科)、46名

## 第8回(1998年11月26日)

「資源制約付きスケジューリング問題の定式化と近似解法」、野々部宏司(京都大学大学院数理工学専攻)、42名

**第9回(1998年12月17日)**

「スケジューリング手法の変遷とAPS(Advanced Planning & Scheduling) ソフトウェア」、中野一夫、野本真輔(構造計画研究所)、48名

**第10回(1999年1月14日)**

「生産スケジューリング記述言語PSLと実問題ライブラリーの提案」、西岡靖之(東京理科大学)、26名

**第11回(1999年3月18日)**

「制約条件の理論(TOC)問題の一般化とその定式化— マネジメント・ゲーム理論の観点から」、松井正之(電気通信大学)、39名

**第12回(1999年4月22日)**

「厳密モデルと近似モデルを併用した生産計画最適化の試み」、中莖洋一郎(NEC、C&Cメディア研究所)、19名

**第13回(1999年5月20日)**

「ERPパッケージの導入について」、川野修義((株)東芝、情報社会システム社)、41名

**第14回(1999年6月17日)**

「ERP/APS導入の課題—マス・カスタマイゼーション—」、手島歩三(ビジネス情報システム・アーキテクト)、49名

**第15回(1999年7月22日)**

「金型工程管理システムの構築と運用の実際」、神垣敏光(ゼクセル、技術本部生産技術部)、29名

**第16回(1999年10月7日)**

「売上増大と在庫削減を動機づけるスループット会計」、菅本栄造(専修大学商学部)、25名

**第17回(1999年11月12日)**

開催100回記念研究会「ラグランジュ緩和法とスケジューリング」、「ラグランジュ緩和について」、鈴木久敏(筑波大学)、「ラグランジュ緩和によるスケジューリング」、米田清(福岡大学)、35名

**第18回(1999年12月9日)**

「TOCと改善」、松浦春樹(神奈川大学経営学部)、39名

**第19回(2000年1月20日)**

「全体最適思考とサプライチェーンマネジメント」、黒田充(青山学院大学)、48名

**第20回(2000年3月23日)**

「APS(Advanced Planning & Scheduling)の開発-TOCに基づく資材調達と資源スケジュールの同時立案」、安藤成之(NECビジネスシステム)、50名

**第21回(2000年4月20日)**

「SCMツールAspen MIMIのご紹介と日本におけるSCM導入の状況」、降旗勝夫(システムプラザ)、40名

**第22回(2000年5月25日)**

「e-businessにおけるSCPパッケージの位置付け—SAP APOのご紹介およびデモ」、後藤真紀子(SAPジャパン)、55名

**第23回(2000年6月23日)**

「日立的サプライチェーン経営革新活動—SPIRIT21:手法とツール—」、毛利峻治((株)日立製作所、生産技術研究所)、37名

**第24回(2000年7月21日)**

「TOCの現状と今後」、竹之内 隆、(シーアイエス株式会社 コンサルティングカンパニー)、37名

**4 おわりに**

本研究部会では、製造業やサプライチェーンの管理技術、生産スケジューリングに対する数理技術に関心をお持ちの方の参加を歓迎しております。問い合わせは、

幹事 今泉 淳(東洋大学経営学部)

E-mail jun@prod.mng.toyo.ac.jp

電話 048-468-6342(FAX 兼用)

までお願い致します。また下記のURLのWebページにて、過去の研究会の講演概要並びに最新の情報を提供しておりますので御参照下さい。

<http://www.prod.mng.toyo.ac.jp/scm/>